

飯山市埋蔵文化財調査報告書 第17集

長野県飯山市

田草川尻遺跡

V

1988・3

飯山市教育委員会
セブン・イレブン飯山秋津店

序

飯山市内には数多くの埋蔵文化財包蔵が存在しており、市教育委員会ではこれらの包蔵地について、文化財地図の作成・文化財パトロール等を行い保護対策を講じております。

ただ、近年盛んになりつつある開発事業に伴い、それに先立つ記録保存としての発掘調査も増加の傾向にあります。文化財充実と自然や文化財との調和が図られた結果であり、教育委員会も積極的に進めているところであります。

田草川尻遺跡は、飯山市でも特に重要な遺跡の一つであり、開発に伴い過去四回の発掘調査を進めてまいりました。今回の店舗建設に伴う調査は、事業主の堀川氏の深い御理解をいただく中で実施することになりました。

本報告書が埋蔵文化財に対する理解を一層深める上に役立ち、多くの方々に利用されることを願ってやみません。

末筆となりましたが、この調査にあたって御協力をいただきました堀川正行氏をはじめ、調査員の方に深く感謝申し上げます。

昭和63年3月31日

飯山市教育委員会

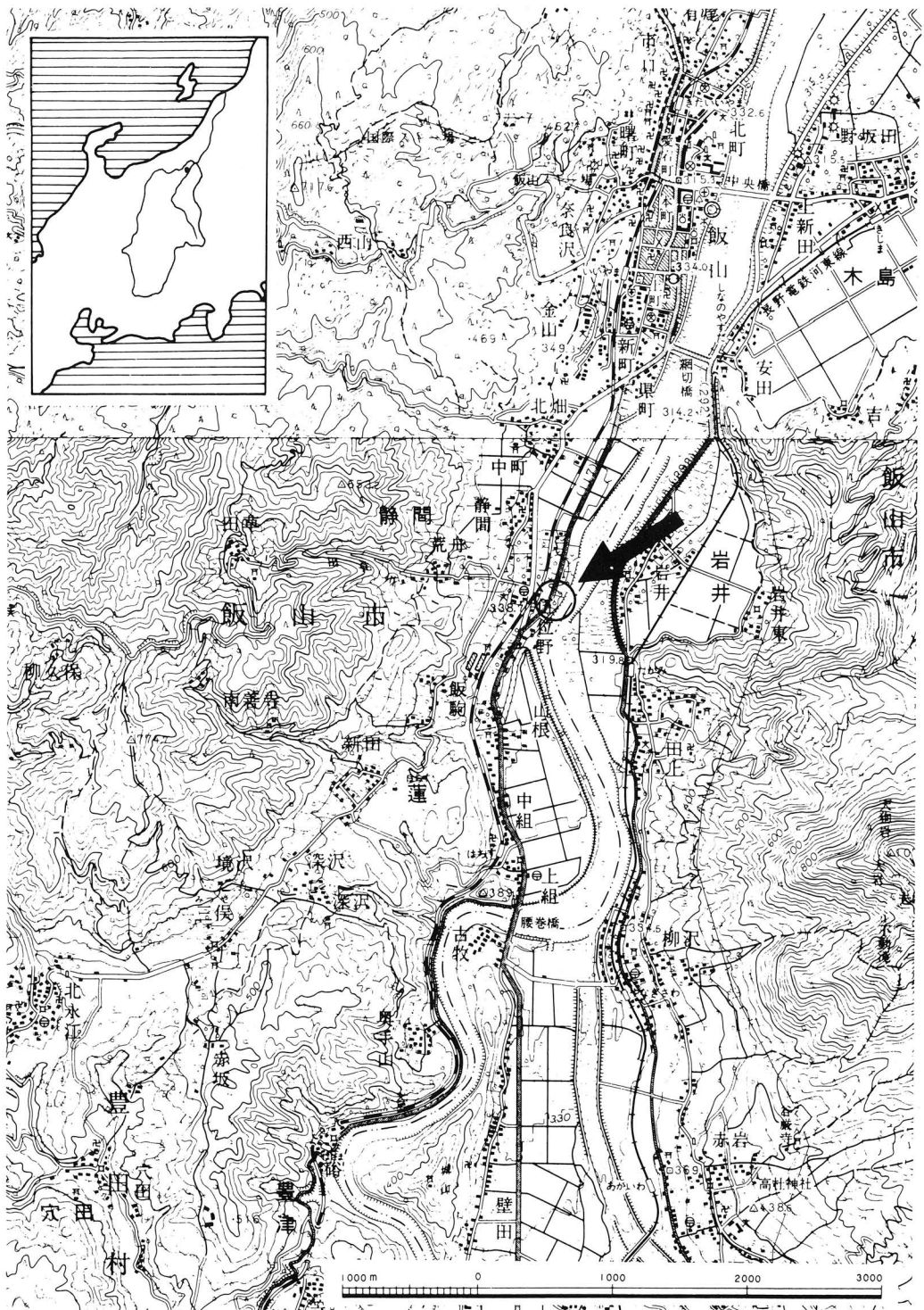
教育長 浦野 昌夫

目次

序	
例言	
I 遺跡概観	2
1 遺跡の位置	2
2 周辺遺跡	2
II 田草川尻遺跡	6
III 調査	12
1 経過	12
2 発見された遺構と遺物	14
(1) 遺構	
(2) 遺物	

例言

- 1 本書は、店舗建設に伴う、飯山市大字蓮字北原213～1に所在する田草川尻遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 調査は、事業主堀川正行氏から依頼を受けた飯山市教育委員会が調査団を編成して行った。
- 3 本書は望月がまとめた。



第1図 田草川尻遺跡の位置 (1 : 50000)

I 遺跡概観

1. 遺跡の位置

田草川尻遺跡は、飯山市大字蓮字北原地籍を中心として、縄文～中世に亘る10万㎡に及ぶ一大複合遺跡である。(第1図)

甲信国境に源を発する千曲川は、佐久・上田盆地を流下し、長野市川中島付近で犀川を合わせ肥沃な善光寺平を形成する。善光寺平東縁に至ると東側の長丘丘陵、西側の斑尾山麓の隆起地帯を穿入蛇行する。そして中野市古牧地区の長丘丘陵北端に至ると再び流域を広げ信濃に最後の平を残す。これが飯山盆地である。飯山盆地を過ぎると信越国境の山岳地帯を再度穿入蛇行し越後へと流れ去る。

田草川尻遺跡は飯山盆地が展開する最初の地点に位置する。東側に高社山(1352m)が聳えているために比較的狭長な沖積地を千曲川が流れ、善光寺平と飯山盆地との回廊口的な地点となっている。飯山盆地西縁は上境～鬼坂断層線によって画かれているために急傾斜をもって斜面に接している。そのため山地から流出する河川は急流をなし、斜面の急な小扇状地を形成している。遺跡の所在する秋津地区でも三つの扇状地が発達している。すなわち、清川・田草川・宮沢川による各扇状地である。

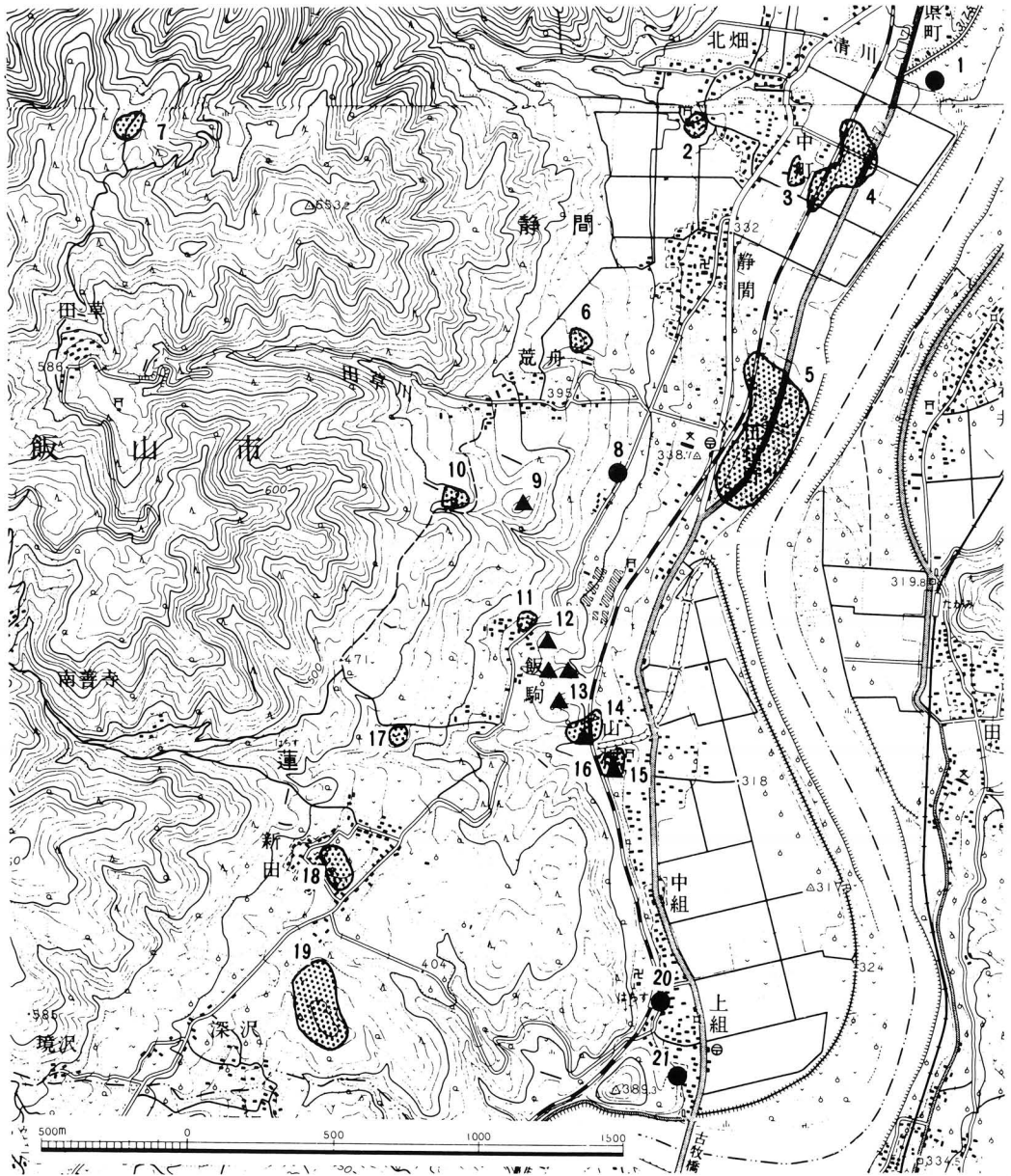
田草川尻遺跡は、このうち田草川扇状地扇端面に立地する。南側は宮沢川の小扇状地と千曲川沖積地に接しており、北側は清川扇状地との間の低湿地帯に接している。また、東側は千曲川が扇状地扇端部を挟るように(攻撃斜面)が流れており、その比高差は5m前後である。

2. 周辺遺跡

当田草川尻遺跡の位置する秋津地区には、21ヶ所の遺跡が確認されている(第2図)。時期的には縄文早期から平安・中世に及んでいる。特に著名な遺跡としては、縄文中期深沢遺跡(19)、同晩期山ノ神遺跡(6)、勘助山古墳(9)などが挙げられる。

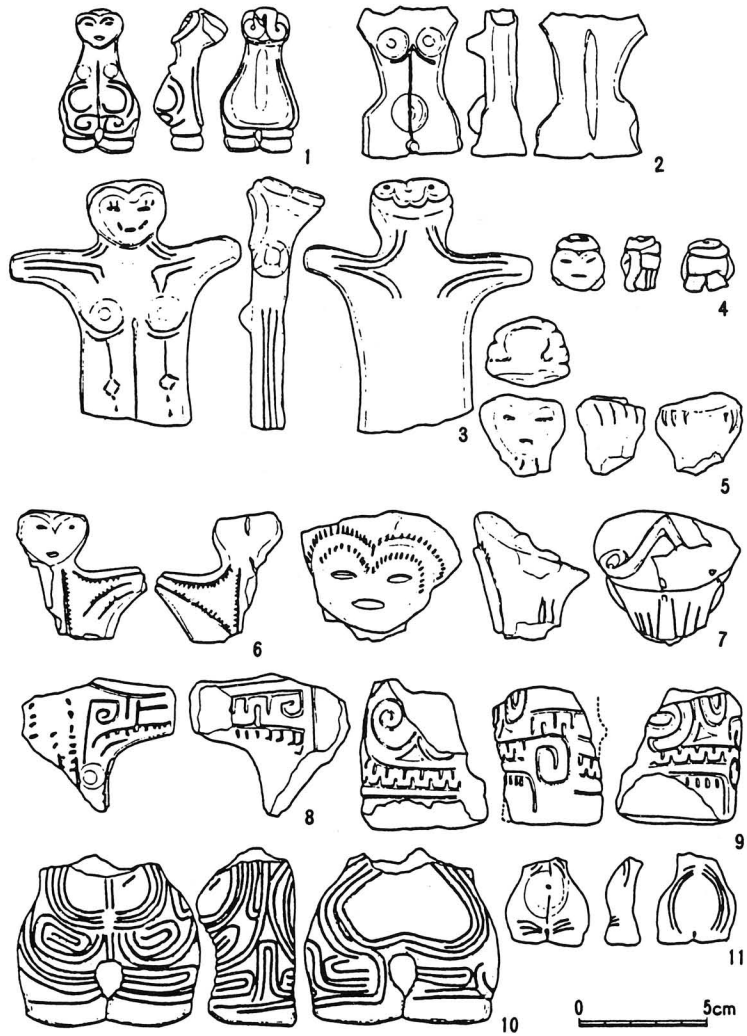
深沢遺跡……昭和37年、当時中学生であった猪瀬良平氏が採集した土偶脚部破片に注目した神田五六・高橋桂氏等によって、昭和38年～40年にかけて3回発掘調査された。土器は縄文中期初頭～中葉に比定されるもので、北陸の新崎様式に極めて類似する土器が存在している。また、特筆すべきは土偶が45点出土したことである。中でも中空大土偶は、新潟県上野遺跡例に類例があり、土器・土偶とも北陸地方の様相が認められている(西沢 1982)。

山ノ神遺跡……昭和47年、土地改良工事に際して発見され、急遽発掘調査が実施された。約90㎡の範囲に確認された集石遺構を中心として、晩期に属する多量の土器・石器が検出された。土器は佐野Ib式、佐野II式を中心とする土器群であり、佐野式土器を補完する資料として重要視さ



第2図 周辺遺跡分布図 (1 : 25000)

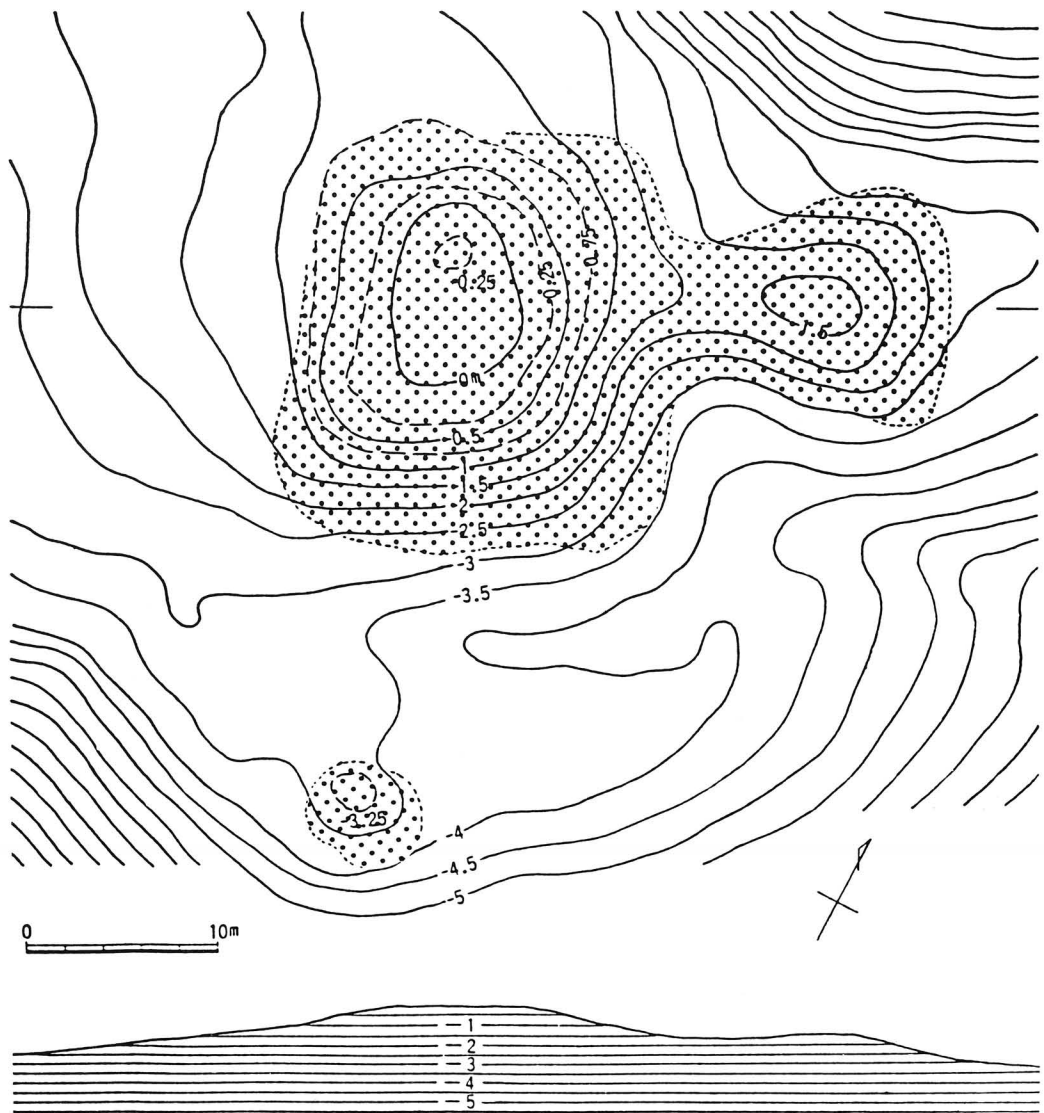
- | | | | | | |
|-------------|----------|----------|----------|---------|-----------|
| 1. 小屋解 | 2. 静間神社南 | 3. 京ノ町 | 4. 中町 | 5. 田草川尻 | 6. 山ノ神 |
| 7. 田草オヤチ | 8. 上伍位野 | 9. 勘介山古墳 | 10. 荒船 | 11. 道源沢 | 12. 道源沢古墳 |
| 13. 五里久保古墳群 | 14. 五里久保 | 15. 山根 | 16. 山根古墳 | 17. 駒立 | 18. 茂衛門新田 |
| 19. 深沢 | 20. 上組 | 21. 蓮 | | | |



第3図 深沢遺跡出土土偶 (1:3)



写真1 山ノ神遺跡出土魚形線刻画土器片



第4図 勸助山古墳実測図（1：400）

れている（大原 1982）。さらに、線刻による魚形が描かれた土器片の出土は、他に類例がないというだけでなく当時の生業・生活思想の一端を知る好材料である（高橋 1972）。

勸助山古墳……松沢芳宏氏によって確認されたもので、前方後方墳として推定されている（松沢 1982）。ただし、測量調査のみであり、発掘調査を経ていないために具体的な内容については一切わかっていない。しかし、本古墳が古式古墳の可能性が高い事は、田草川尻遺跡に直接関係してくるばかりではなく、飯山地方における古墳文化を究明する上で重要な鍵となることは間違いないだろう。

II 田草川尻遺跡

長野県史によれば、田草川尻遺跡は県史番号127（縄）前、中期土器、石鏃、打石斧、石匙、凹石（弥）竪穴住居、栗林式、箱清水式（古）竪穴住居、祭祀址、五領式、和泉式、鬼高式、須恵器、滑石製勾玉、鉄鏃、鉞、鞆羽口（高坏）（奈）須恵器（平）土師器、須恵器、刀子と出土遺物が記載されている。また、同県史主要遺跡（北・東信）では第1次・2次の成果報告が担当した高橋によってなされている。

本稿では過去の調査成果を踏まえ、田草川尻遺跡の概要について触れてみたい。

遺跡は過去4回の発掘調査が行われており、これを便宜的に第1次～4次調査とする。

第1次調査

昭和47年、国道117号線静岡バイパス敷設工事に併い緊急発掘調査が実施された（第7図A～E）。約600㎡の調査によって、縄文前期・弥生中期土器片とともに古墳時代の竪穴住居址2軒、平安時代竪穴住居址1軒、古墳時代祭祀遺構2基、平安時代土壇13基が検出された。

第2次調査

昭和52年、工場用地造成に伴い、約1500㎡を調査した。調査によって弥生時代4、古墳時代4、平安時代11の計19軒の竪穴住居址が検出され、田草川尻遺跡の中心部分であることが判明した（第7図F）。

弥生後期の土器は量的にもまとまっており、調査者のひとり太田文雄は土器群を分析して、田草川尻Ⅰ・Ⅱ式に分類した（太田・1980）。

第3次調査

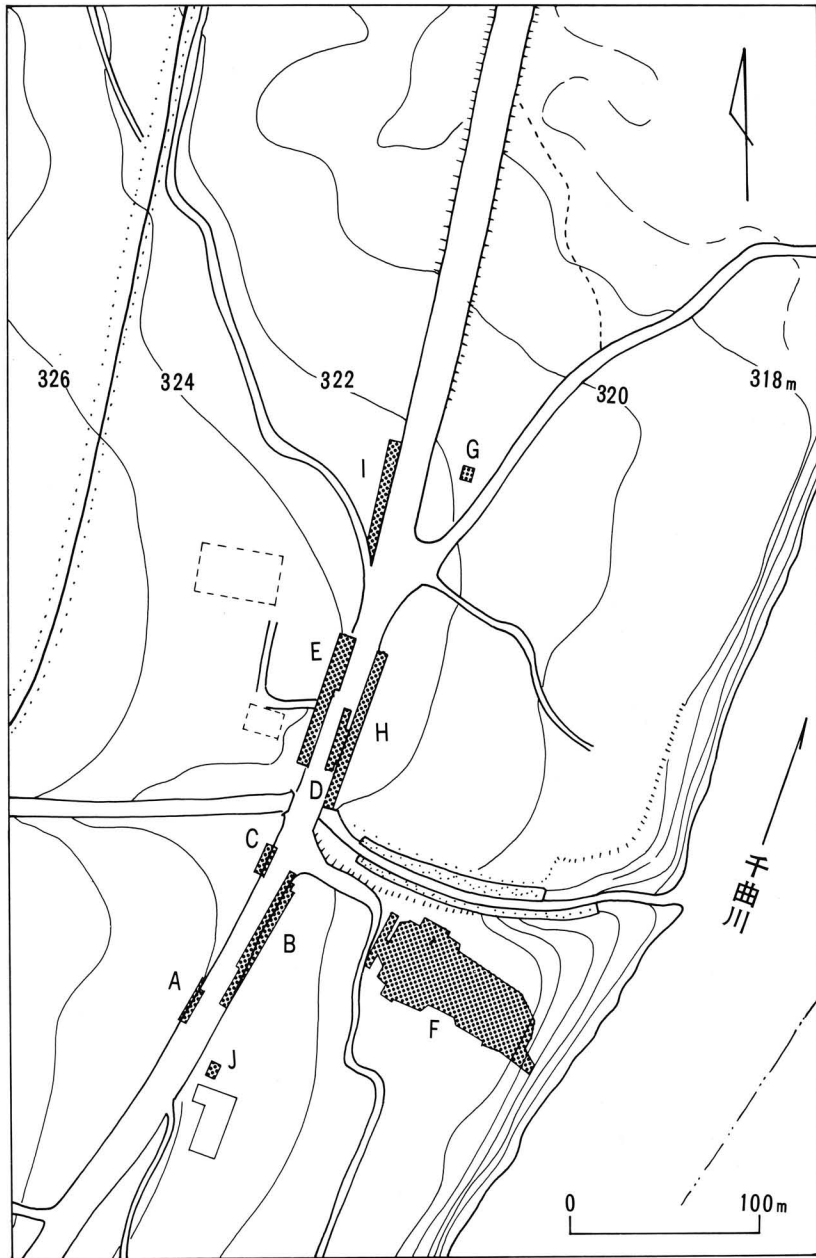
昭和57年、飯山市農業協同組合によるガソリンスタンド建設に伴い調査が実施された（第7図G）。タンク埋設部分の約100㎡を調査したのみであったが、遺物集中箇所2を検出し、そのうち第1地点は弥生後期の赤色塗彩土器のまとまりであり、祭祀の可能性も考えられている。土器は弥生期末に位置づけられる。

第4次調査

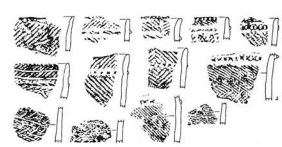

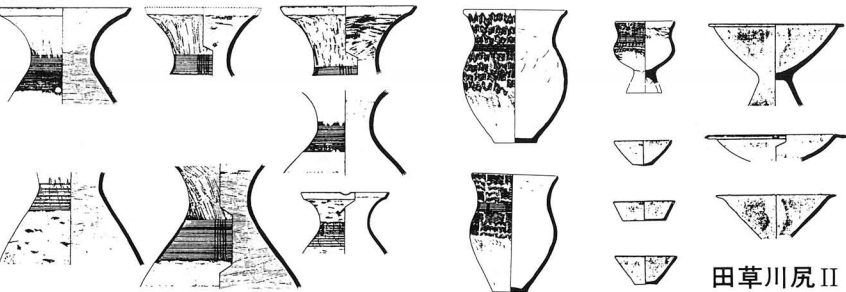
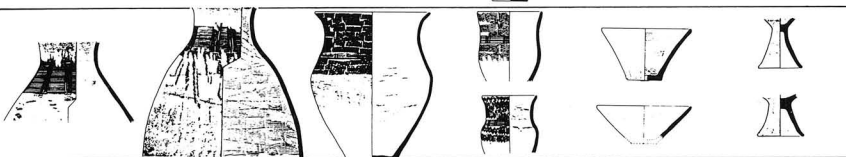
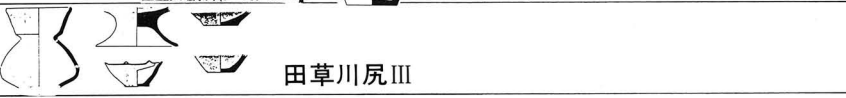


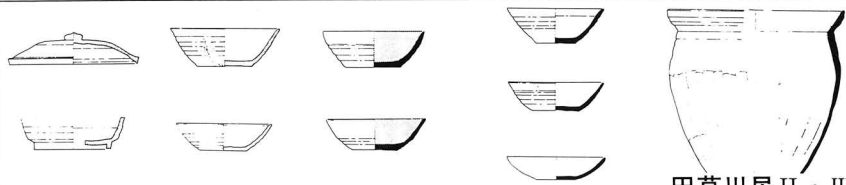
昭和60年、国道117号線道路改良工事（チェーン脱着場建設）に伴い約200㎡を調査した（第7図H・I）。柱穴群等が検出されている。

以上の調査結果から、田草川の北、南では遺構に差異が認められ、南側に遺跡の中心部分が認められる。すなわち、弥生・古墳・平安の各時代の集落址はF地区を中心として、西側のB地区及び南側へ続くものであろう。

また、古墳時代（鬼高期）の大型住居址がB・F地区で一直線上に並ぶ点は、同一存在を推測させるものであり該期の集落形態を知る上で極めて興味深い事例と考えられる。

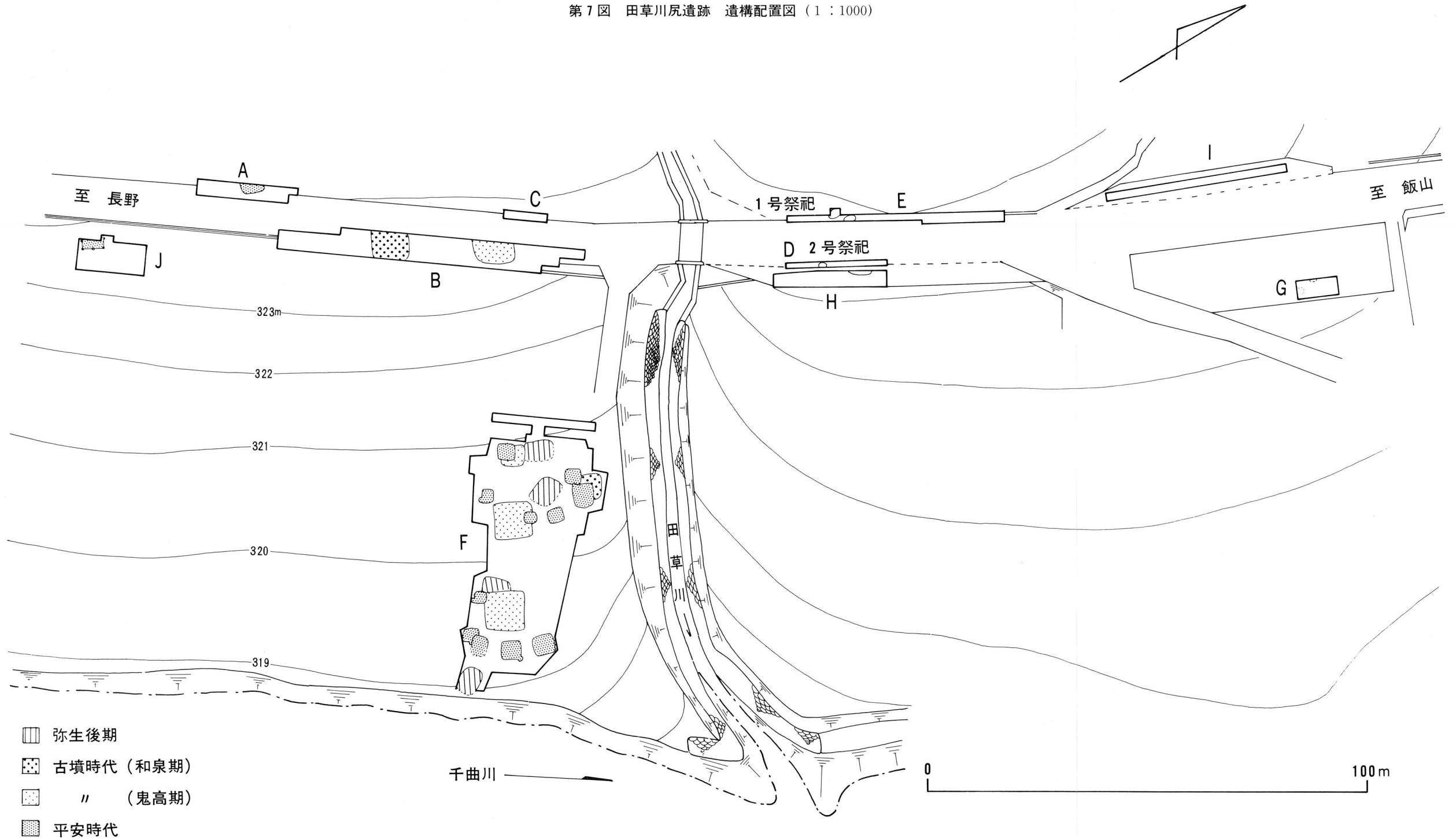


第5図 遺跡周辺の微地形及び調査区 (1:4000)

年代	時代	遺物
約1200年前	縄文時代	 <p>田草川尻II</p>
2300年前	中期	 <p>田草川尻I</p>
	弥生時代	 <p>田草川尻II</p>
		
	後期	 <p>田草川尻III</p>
1700年前	古墳時代	 <p>田草川尻III</p>
		 <p>田草川尻I</p>
1300年前	奈良時代	
1200年前	平安時代	 <p>田草川尻II・III</p>

第6図 田草川尻遺跡 編年図集成

第7図 田草川尻遺跡 遺構配置図 (1:1000)



A B C D E 第1次調査(1972) F 第2次調査(1977) G 第3次調査(1983) H I 第4次調査(1985) J 今次調査区

今回の調査地区は、第一次調査のA・B区の南側である。

次	調査年	調査区	調査原因
1	昭和47年	A ~ E	国道117号線静間バイパス敷設工事
2	昭和52年	F	工場用地造成
3	昭和57年	G	店舗建設
4	昭和60年	H・I	国道117号線改良工事
5	昭和62年	F	店舗建設

田草川尻遺跡発掘調査一覧

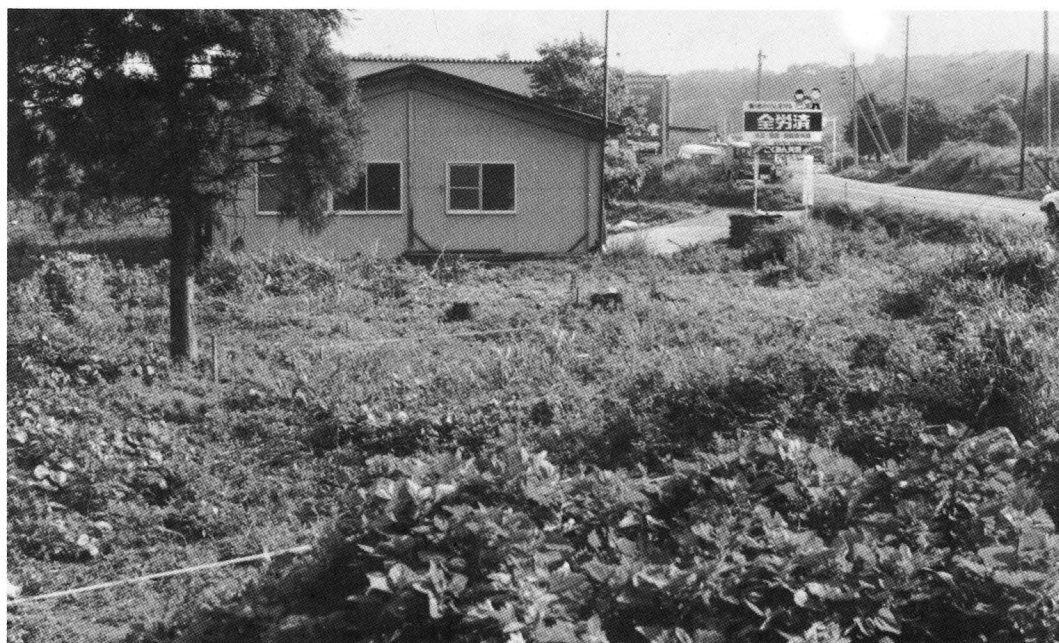


写真2 調査区近景

III 調 査

1. 経 過

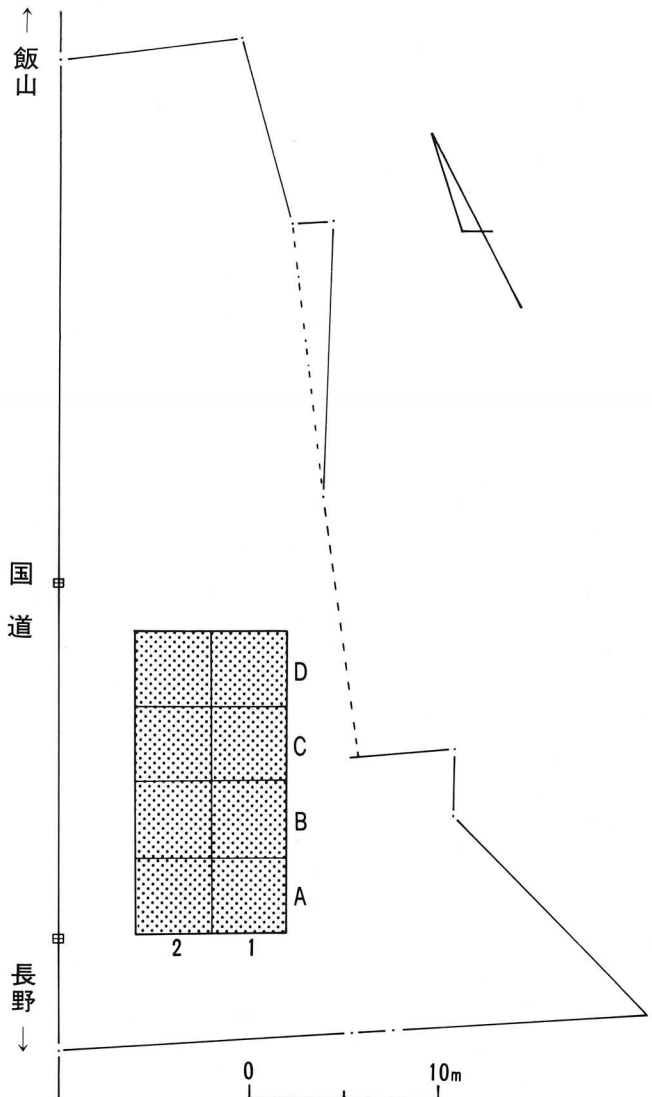
昭和62年4月、秋津地区在住の堀川正行氏より、埋蔵文化財田草川尻遺跡内に店舗建設したい旨の話があった。概要は、770㎡を借地し、国道と同じ高さ（約1.5m）に盛土を施し、そのうち約140㎡の店舗を建設するというものである。着工は7月には行いたいということであり、調査が必要であれば早急をお願いしたいということであった。

教育委員会でその対応を検討したが、五月初旬より圃場整備事業に伴う二遺跡の調査を予定しているため、その事業が終了してから着手することとした。

なお、営利事業に伴う発掘調査の費用は原因者負担を原則としており、その旨を事業主の堀川氏に話したところ深い御理解をいただくことができた。

昭和62年5月15日付で堀川正行氏より、「埋蔵文化財の発掘調査について」の依頼があった。

5月22日、文化財保護の立場から受託し、堀川正行氏と教育委員会教育長浦野昌夫との間で委託契約を締結した。



第8図 調査及びグリット設定図（1：400）

調査は、5月より開始された釜淵ほか1遺跡の調査が終了した6月25日より開始した。調査対象区域は、店舗建設予定地の140㎡部分とし、設計図に基づいて調査区を設定した（第8図）。調査地区は荒蕪地で、杉などの切り株が残っており、加えて黒色土が厚いため重機で表土を剥ぐこととした。

地山面と思われる黄褐色土層は40～100cmで、東に向かって順次深くなっていた。黒色土は火山灰土と思われ、ボロボロとして軟く非常にキメの細かい土層である。

出土した遺構・遺物は少なく、平安期掘立柱建物1、土壇2、柱穴15で、縄文～平安期土器片が少量検出されたにすぎない。

25日から開始された調査は30日まで行ったが、実質3日間で終了することができた。

2. 発見された遺構と遺物

(1) 遺 構

約110㎡を調査したが、出土した遺物は掘立柱建物1、土壇2、柱穴15であった。以下に説明を加えたい。

掘立柱建物（第9図SB1）



写真3 調査風景

一部の検出ではあるが田草川尻遺跡内において初めて掘立柱建物が検出された。梁行4.1mで、柱間間隔は梁行2.05m、桁行2.15mを測る。柱穴の深さは平均30cmである。

遺物はピット1 (P₁) 内より土師器・須恵器片各1点が出土した。

本遺構は出土遺物から平安時代に帰属するものと推定される。

土壇 (第9図SK1・2)

SK1 C-2区に位置する。100×95cmのほぼ方形なプランを呈する。底面はほぼ平坦で鍋底状となっている。覆土はボロボロとした黒色土である。

底面付近より、縄文土器・土師器・骨片 (動物?) が出土している。遺物からは古墳時代以降と推定でき、骨片の出土により土壇墓の可能性も考えられる。

SK2 A-1区に位置し、65×56cmの楕円形プランを呈す。深さは40cmを測る。

遺物は土師器環形土器片で、古墳時代に位置づけられる。

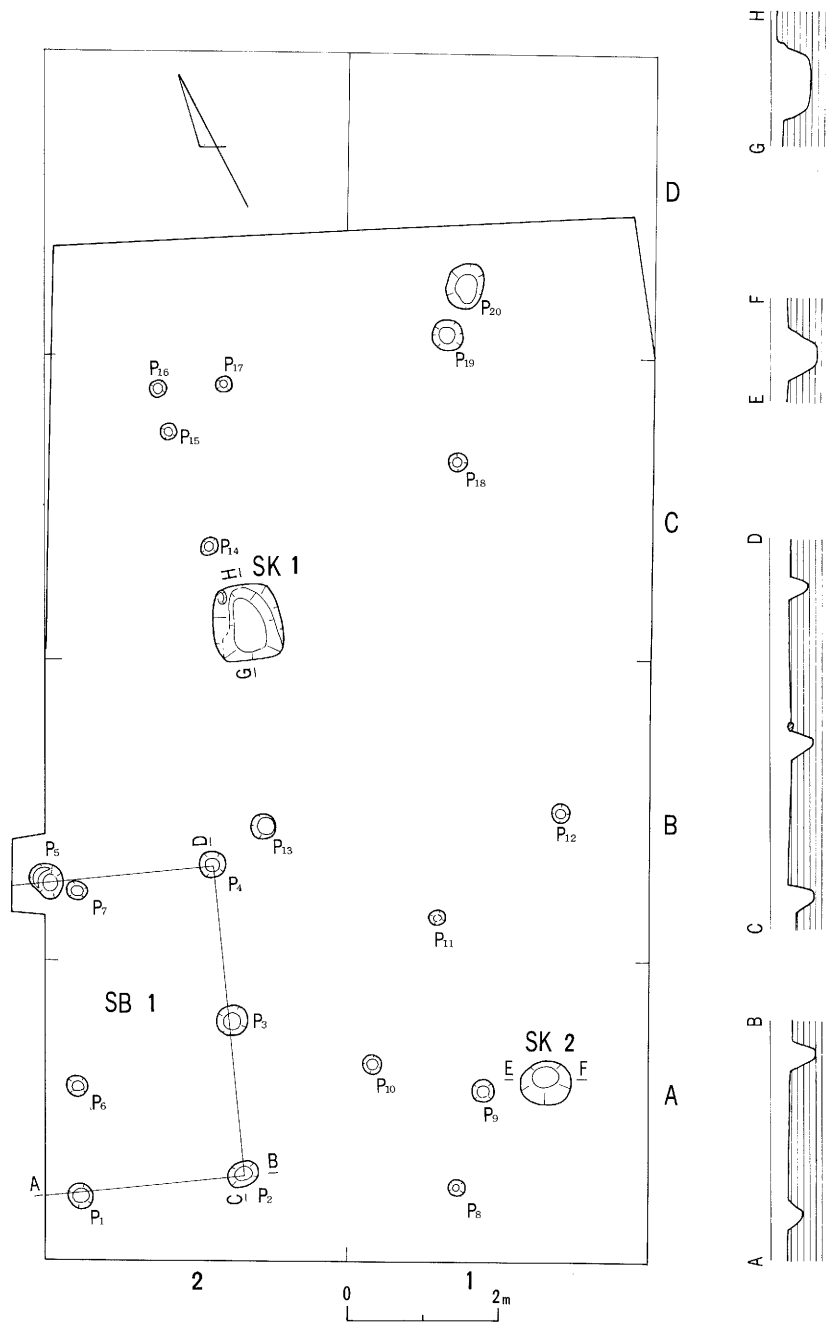
柱穴 SB1以外に15の柱穴が検出されたが、それぞれ関連して遺構となるものはない。

(2) 遺物

遺構およびグリットから出土した遺物は、縄文土器片・弥生土器片・土師器片・須恵器片・骨片 (動物?) であるが、出土量は極く少い。



写真4 調査区遺構全景



第 9 図 遺構実測図 (1 : 100)



写真5 SB1 (平安時代)



写真6 SK1

縄文土器 (写真7)

SK1で細片が出土したほかはグリット一括品である。すべて単節斜縄文を施文したもので前期後半の土器である。

古墳時代の土器 (写真8)

高坏(1) SK2より出土したもので、坏部片と思われる。明褐色を呈し、内外面ともにていねいなヘラミガキがなされる。

碗(2) 胴下半部で内面が黒色処理が施されている。外面はやや白っぽい黄褐色を呈している。外面は研磨、内面はヘラミガキが施される。

甕(3~5) 3は口縁部から胴部に至る部分で、頸部が強く収縮し、短く外反する器形を呈す。赤褐色で、内外面はナデ、内面に輪積み痕を明瞭に残す。

平安時代の土器 (写真8-6)

SB1・P₁より出土したものである。他に甕片が出土している。6は須恵器で長頸壺の頸部片と思われる。内外面ともに自然釉がかかる。

なお、掲載できなかったが弥生式土器が若干出土している。刺突文を有する中期甕形土器片および楯描波状文が施される後期甕形土器片などである。

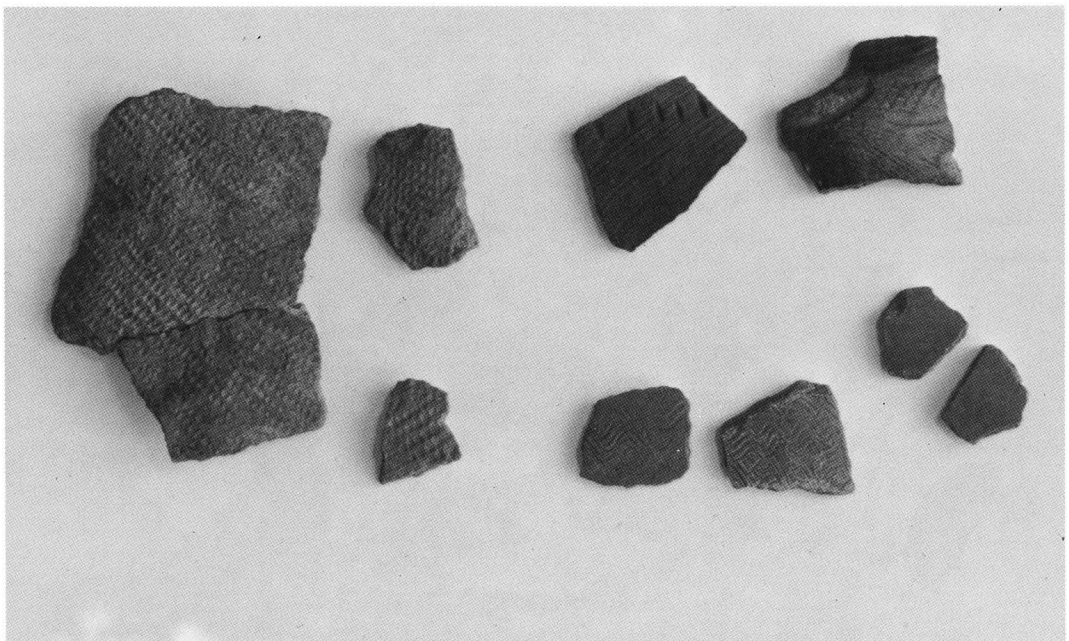


写真7 縄文時代の土器

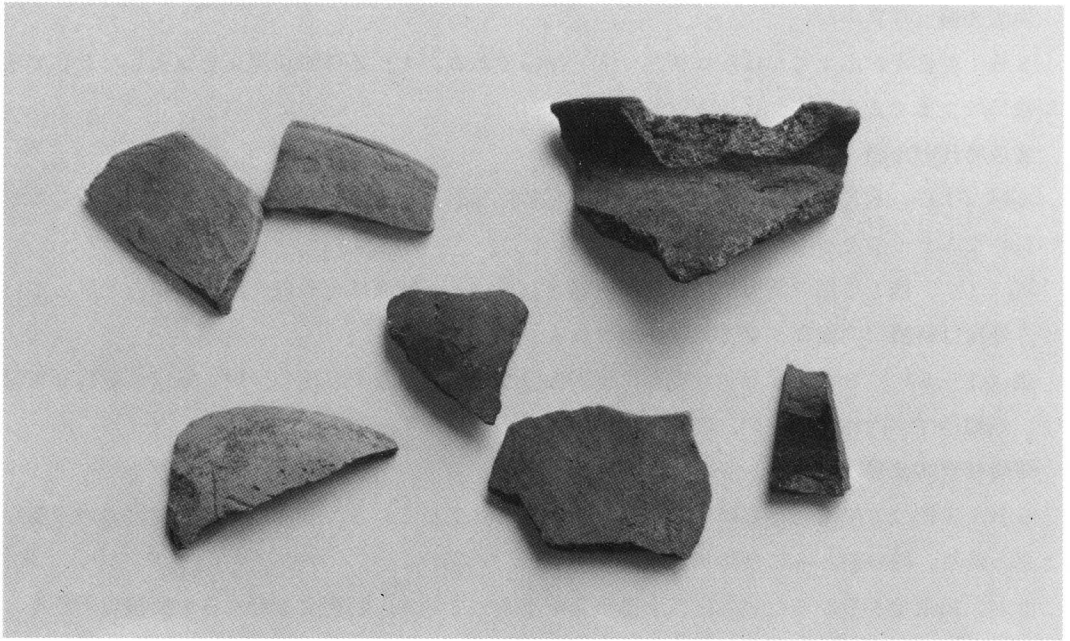


写真8 古墳・平安時代の土器

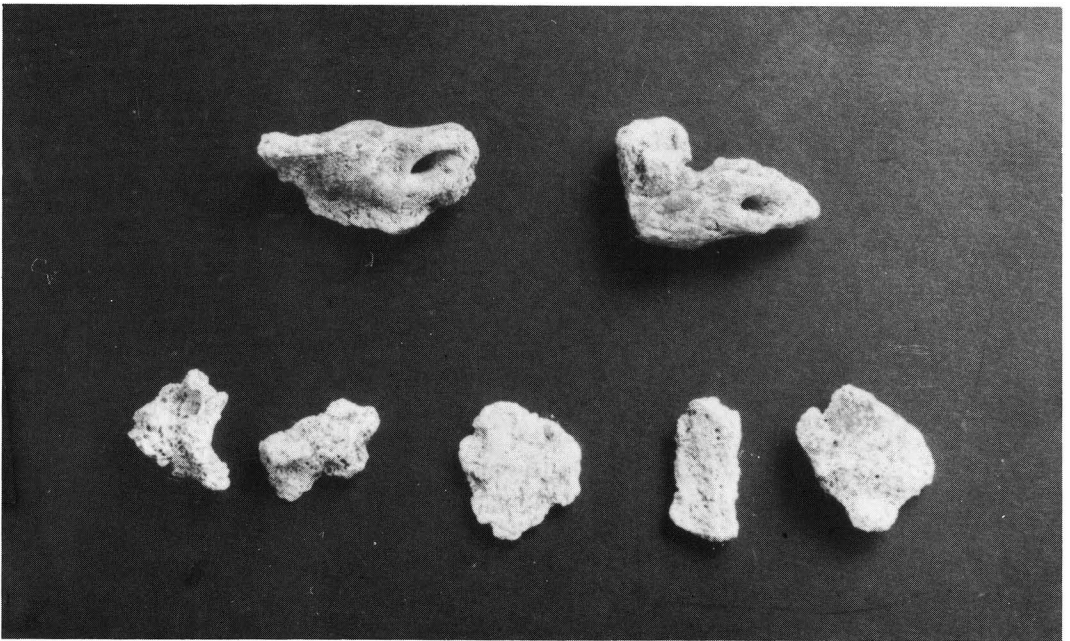


写真9 SK1出土骨片(動物?)

引用・参考文献

- 飯山北高等学校地歴部 1966 「深沢遺跡概報」
- 飯山北高等学校地歴部OB会 1977 「遺跡分布調査報告Ⅰ」
- 飯山市教育委員会 1973 「飯山市田草川尻遺跡緊急発掘調査報告書」
- 飯山市教育委員会 1978 「田草川尻遺跡Ⅱ」
- 飯山市教育委員会 1984 「田草川尻遺跡Ⅲ」
- 飯山市教育委員会 1986 「田草川尻遺跡Ⅳ」
- 太田文雄 1980 「北信濃弥生後期編年について」信濃32—4
- 大原正義 1982 「山ノ神遺跡」県史考古資料編全一卷（二）
- 高橋 桂 1972 「魚形線刻画のある土器片」信濃24—11
- 西沢隆治 1982 「深沢遺跡」県史考古資料編全一卷（二）
- 松沢芳宏 1982 「有尾古墳・勸介山古墳」県史考古資料編全一卷（二）

調査団の構成

団 長 浦野 昌夫 (飯山市教育委員会教育長)
調査担当 高橋 桂 (飯山南高等学校教諭)
" 望月 静雄 (飯山市教育委員会社会教育係)
調 査 員 常盤井智行 (飯山市常盤小沼)
" 田村 澁城 (飯山市外様顔戸)
調査協力 松沢 芳宏 (飯山市秋津静間)
" 坪根まどか (学生)

事務局長 佐藤 清 (飯山市教育委員会教育次長)
事 務 局 小川 恵一 (飯山市教育委員会社会教育係長)

飯山市埋蔵文化財調査報告書 第17集

田 草 川 尻 遺 跡 V

昭和63年 3 月31日

編集・発行 飯山市教育委員会

印 刷 (有)文栄孔版社

